

第42回 住まいのリフォームコンクール 審査委員特別賞

タイトル 小さく豊かに <実家リノベーション>

所有・建方形式 持家一戸建

設計会社 (株)三友工務店

構造 在来木造

施工会社 (株)三友工務店

リフォーム前後の写真



ご両親の立ち座りがしやすいように
固めのクッションで座面高さを高めた自作ソファ

1. 計算結果

項目	単位	計算値
UA 外皮平均熱貫流率	[W/m ² K]	0.39
ηAC 気密性平均目録取得率	[-]	1
ηAH 気密性平均目録取得率	[-]	1.1



C 日当たりの良い南側にLDKを配置し、そこから各部屋や水回りにアクセスできる
親と子のプライベートを確保できるように程よい距離感をもたせた



D LDK前には道路からの視線も気にならないよう木格子を設置
路地・土間玄関には、庭を楽しめるよう石ベンチも設置



E 水回り動線が確保できそれぞれの
気配を感じられる2部屋のような空間



F 各部屋・外部へアクセス可能



リフォームの動機／設計・施工の工夫点／施主の感想・満足度／住宅の価値を向上させた内容など

【動機】 高齢となった両親の今後の生活や、家と土地の管理を考え、実家での同居を決意したお施主様。親と子の生活スタイルは変わらず、趣味を楽しみ、友人も気軽に遊びに来られる家。そして家族全員が安心して快適で、将来の変化にも対応できるリフォームを希望されました。

【設計】 将来の管理面からあえて居住部の増築はせず、主要構造部を残したスケルトン状態にして、耐震補強・断熱改修を実施。

施。プライベートを確保できる程よい距離感の間取りに、窓を出入り口と捉えた「路地玄関」で、親子の日常を変えることなく、暮らしは今まで以上に快適になりました。

【感想】 “個”を大切にしたい間取りの快適さ、暮らしやすさはもちろん、断熱性能の高さは想像以上。短時間で家全体が温まるため、以前のように真冬でも一日じゅうエアコンをつけていることがなくなりました。両親も快適に過ごしており、とても満足しています。

審査基準のうち右記に該当する場合は a.ストックの有効活用 / b.深刻化する技能者不足への対応 / c.既存住宅流通・リフォーム市場の拡大・活性化

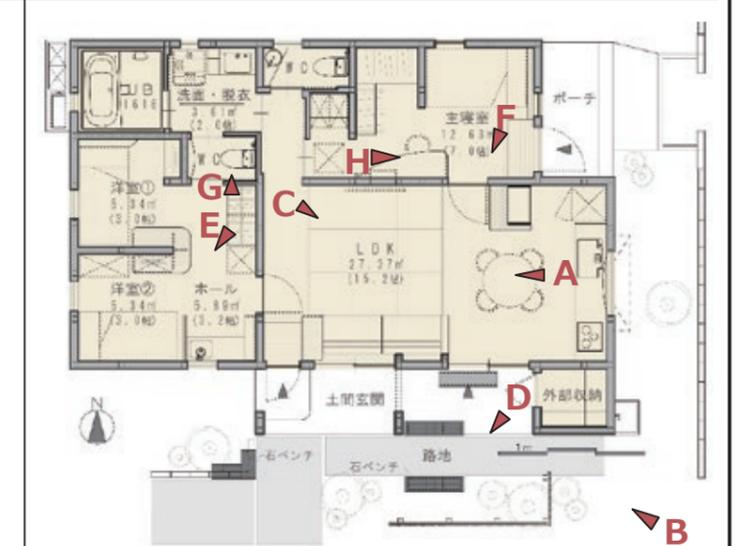
性能向上の特性	特に配慮した事項	lw 値、ls 値
劣化対策・断熱改修・耐震性・維持管理・省エネ・バリアフリー	断熱改修 すべての天井・壁・床に断熱充填、気密工事をして、窓は三層ガラス樹脂窓を採用	リフォーム前 0.39 リフォーム後 1.43

所在地	熊本県熊本市	新築竣工年	1976年	築後年数	49年	施工期間	180日間
該当工事床面積	71㎡	総工事床面積	74㎡	該当部分工事費	2,000~3,000万円未満	総工事費	2,000~3,000万円未満
居住者構成	65歳以上: 2人 / 40~64歳: 1人 / 15~39歳: 1人 / 14歳以下: 1人 / ペット: 1人						

リフォーム前の平面図



リフォーム後の平面図



リフォーム部位: ■居室/ ■台所/ ■浴室/ ■便所/ ■洗面所/ ■廊下/ □階段/ ■玄関/ ■クローゼット/ □マツコ共用部分/ □その他

審査委員特別賞

■ 講 評

熊本市内の住宅地、高齢になった両親と同居するための実家の戸建て木造住宅のリフォームである。介護メインの住まいでなく、お互いの生活スタイルを保ちながら趣味を楽しみ、友人も気軽に呼べる家にしたい。そう考えた施主が尋ねたのは、見慣れたショーホーム（モデルハウス）のある近所の工務店だった。

同居にあたり、施主は増築して住まいを大きくすることをイメージしていた。しかし、将来の維持管理を見越してコンパクトなまま全面リフォームすることを設計者は提案。既存の建物をスケルトンまで戻して、耐震や断熱の性能も抜本的に改善することにした。

設計のヒントは、施主との何気ない会話やふるまいから拾っていった。例えば、日常的な出入りは玄関を使わず庭側の掃き出し窓を使っていたことから、一般的な玄関は設けずに、どこからでも人を温かく招き入れる構えとした。ダイニングの掃き出し窓に面しては、小さく増築した外部物置と木格子に囲われた気持ちのいい半屋外空間がある。この空間を包み込むように屋根は1mほど伸ばし、その軒下には庭を楽しみながら一杯できる石ベンチを設けた。閉鎖的になりがちな現代の住まいをまちとゆるやかにつなぐ中間領域のデザインである。

プランは、「個」を尊重した部屋配置や限られた面積のなかでの動線計画が練られた。ポイントは、滞在時間の長いLDKをいかに大きくできるか。造作の高さを70cmにそろえてスッキリさせるほか、天井を低くして空間の重心を下げ、間接照明を組み込むことで、空間を広

く見せる工夫も施されている（天井に張ったモミは、音響、調湿、消臭効果もある）。居場所は窓辺を中心に設けたため、サッシはトリプルガラスとし、安定した温熱環境をつくった。設計者には話をよく聞いてもらい、隠れた要望もよく引き出してもらったと施主は振り返る。

現場には施主も当時住んでいた近くのマンションからよく通い、ゆっくりとした住まいづくりを一緒に楽しんだ。現場には、造作に強い大工が入った。ベッドにもなるソファ、靴の脱ぎ履き時の手すりにもなる靴入れ、テーパーの付いたシャープな窓台など、細部までしっかりつくり込まれた住まいになった。

このように、将来維持管理していける規模のまま、生まれ育った住まいを質の高いストックへと再生させた本作品に審査委員特別賞を贈る。